

令和7年度 梶の木保育園自己評価

1. 評価基準日 令和7年12月1日(月)
2. 対象者 保育士(10名)
3. 評価方法 年度ごとに保育士が自己評価チェックシートに基づき各自自己評価を実施。評価結果を基に事務局長面談を行い、1年間の成長と課題、次期年度の目標について確認する。その後職員会議にて事務局長より総合評価結果について説明する。
4. 評価項目 保育環境、保育内容、子ども・保護者への関わり方等について評価項目を設定。
5. 評価基準 ①よくできた ②できた ③あまりできなかった
④まったくできなかった

評価項目	①	②	③	④
1. あなたは、梶の木保育園の保育方針を理解していますか。	4	6		
2. あなたは、毎日、保育室の安全確認を行っていますか。	3	7		
3. あなたは、地震や火災等の非常事態が発生した場合に、どのように対応するか理解していますか。	3	7		
4. あなたは、自分自身の心身の健康に留意し、常に安定した状態で保育に取り組んでいますか。	3	7		
5. あなたは、子どもひとり一人の個性や発達段階に応じた保育に取り組んでいますか。	3	7		
6. あなたは、保護者に積極的に話しかけ、悩みや相談事を話していただけるよう信頼関係の構築に努めていますか。	2	7	1	
7. あなたは、自分の保育を振り返り、課題確認や改善への取り組みを継続的に行ってていますか。	2	6	2	
8. あなたは、子どもやその家庭の情報を他に漏らさないよう努めていますか。	8	2		
9. あなたは、子どもの保育の状況を記録するとともに職員間で共有していますか。また、保育記録を毎日の保育に生かしていますか。	1	8	1	
10. あなたは、園長からの指示や職員からの意見に耳を傾け、常に意思疎通を図るよう努めていますか。	1	9		

【事務局長評価】

前回評価と比較し、③あまりできなかつたが減少し、①よくできた②できたのチェック項目が増えたことは高く評価できる点である。

中でも個人情報管理に関する項目は高い自己評価結果となっており、情報管理に関する意識が保育園全体にしっかりと根付いていることを示すものである。

ただし①よくできたよりも②できたと自己評価している項目が多いのも事実であり、引き続きOJT、Off-JT、自己啓発等を通じて保育士の資質向上を図っていくことが求められるところである。

園児の顔ぶれは毎年変わっていくもので、その対応にはより柔軟さが求められるところであるが、一方で自己評価項目は普遍的であり、今後とも保育園全体として意識と行動の底上げに向けての取り組みを推進することを望むものである。

【園長評価】

評価項目6・7・9において、③あまりできなかつたと自己評価した職員が数名みられた。園児の受け入れ、送り出し対応や保護者対応、記録業務等に直接関わる機会が少ない勤務形態であることが、自己評価が低くなつた要因であり、業務内容や役割分担の違いが少なからず影響していると思われる。

当該職員も日々の保育においては、こどもひとり一人と丁寧に関わり、役割の中で責任を持って保育に取り組んでおり、決して保育の質が低いという評価ではない。

一方で保育の関わりや記録、情報共有、自己振り返りの時間が限られていることは課題と言える。

今後は、勤務形態や役割に応じた情報共有の工夫、振り返りの機会の創出等指示体制を検証し、園全体としての保育の質向上が図られるよう努めていく必要がある。